

## 3つのワクチンの医療経済的な評価について

(出典:公衆衛生情報 2011. 3)

【留意点】 ・推計結果は、複数考えられる評価指標の一つ ・前提条件により推計結果が変化

費用比較分析……………ワクチン接種に伴う費用と、ワクチン接種で疾病が減ることに伴う医療費削減額を比較。小児に接種するワクチンについては、家族の生産性損失の費用についても考慮。

費用効果分析……………ワクチン接種による健康への影響を、QALY(質調整生存年・生活の質QOLで重みづけした生存年)に換算してから推計し、1QALY(健康な寿命を1年延伸させる効果)を得るために必要なワクチン接種費用等が500万円を基準に良好かを評価。

	接種費用(接種率)	ワクチン接種により削減される医療費	生産性損失または獲得QALY	医療経済的な評価	備考
Hibワクチン	353.6億円 (94.3%、4回接種) 現在の接種率は0%と仮定 (参考) 接種後100%で約400億円	203.2億円	+88.0億円 接種時+154.5億円 治療時-66.5億円	費用比較分析を実施。 1年あたり238.4億円の費用超過	
小児用肺炎球菌ワクチン	448.4億円 (94.3%、4回接種) 現在の接種率は0%と仮定 (参考) 接種後100%で約500億円	256.5億円	-220.4億円 接種時+153.4億円 治療時-373.8億円	費用比較分析を実施。 1年あたり28.5億円の費用低減。	
HPVワクチン	230.5億円 (85.1%、57.2万人 (13歳女子)、3回接種) 現在の接種率は0%と仮定 (参考) 接種後100%で約300億円	57.3億円 (参考) 185.7億円	ワクチン接種による 獲得QALY8,600	費用効果分析を実施。 1QALY獲得あたり 201万円と推計、費用 対効果は良好。	ワクチンは 生涯有効と仮定 子宮頸がんの罹患と 死亡を考慮